

県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会
金沢市尾山町10番5号
石川県文教会館内
電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会
広報部

印刷 株式会社 山 越



第5回研究大会 郡市町教育研究会協議会（県地場産業振興センター）

これからの学教研を考える



石川県小中学校教育研究会

副会長 中 克之

次期学習指導要領が昨年三月末に告示されました。十八年度からの先行実施を経て、小学校は二十年度、中学校は二十一年度より全面実施となります。知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブラーニングが改訂ポイントのひとつとなっています。

また、告示後の五月には大学入学共通テスト実施方針案とモデル問題の検討案が示され、年末には試行がありました。これまでのセンター試験に替わるものであり、知識・技能を十分有しているかの評価を行いつつ、グローバル社会で求められる思考力・判断力・表現力を中心とした評価が行われる予定です。実施は二十年度。つまり二十一年度入学選抜試験からとなります。現在の中学三年生が、新テストを受ける一年目の学年です。英語では、「読む」「聞く」に加え、「話す」「書く」の四技能を適切に評価するため、英検やTOEFLなどの民間資格検定試験結果を活用する方針だそうです。方針案と併せて示されたモデル問題例では、国語と数学に加えられる記述式問題が例示されました。国語問題の題材は、「町並み景観保護ガイドラ

イン」についてのディスカッションや、「駐車場使用契約書」など、実生活に近い内容となっています。

社会はグローバル化や人工知能の急速な発達が進んでいます。これからの時代を生きる生徒たちに身につけたい力は、次期学習指導要領と大学入試改革を併せて見ると、より理解することができます。

石川県小中学校教育研究会は、今年度六年目を迎え、第五回研究大会を八月に開催いたしました。設立の目的は、授業研究の継承や研究会のネットワークを県内全域に広げ本県小中学校の教育の充実に貢献することにあります。県内研究団体の大会開催地調整も本会の重要な役割です。学校数が減少する中、研究団体の大会開催予定を再調整する必要があります。

また、県全域から集まる現在の役員会等の持ち方や回数、校長会事務局にける負担など、今後の持続発展のためにも見直しが必要です。

学教研は、次の時代を見据えた研究団体が各地区で研究を深め、県内全域に広がるよう、教員のつながる場を今後も提供していきたいと思えます。

〈研究会紹介〉

金沢市小中学校教育研究会

金沢市では、金沢型学習モデルに基づく教育活動が昨年四月より、全市一斉にスタートしました。本研究会は金沢市教育委員会の指導のもとに、学習指導要領などの法令に則り、自主的・創造的な教育活動を行い、本市小中学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的として活動してまいりました。そこで、全体テーマを見直し、「二十一世紀に生きる心と力を育む金沢型学校教育モデルの実践」とし、副題は、本研究会が長年大切にしてきた「問題解決を通して確かな学力を育む指導力の向上」として、十九の部会ごとに、各部会員が切磋



国語科部会の研究授業の様子

琢磨しながら教育実践を積み重ね、公開研究授業や講演会等の研修会を柱に、年間八回の活動をしてきております。

また、金沢市教育委員会の委託を受けて、中学校入学直後の生徒を対象として、全市統一で実施される「中学校一年生学習到達度問題（四教科）」の作成にも取り組んできています。

今回の新学習指導要領の根底にあるものは、どんな難題にも答えを求め続け、よりよい社会や人生を切り拓く資質・能力の育成であります。「教育とは子どもの心に火を灯すこと」「目の前の子ども達のよさや可能性を最大限に引き出すこと」「学びを自分に返し、一歩うって出る子どもを育てること」教師は目の前の子どもの学ぶ姿から改善点を見出し、本会も不断の授業改善に努めていきたいものである。

（文責 金沢市立米丸小学校 山田 裕司）

金沢市小中学校教育研究会

金沢市小中学校教育研究会は会員相互の研究・実践活動を通して、金沢市の中学校教育の振興・発展を図ることを目的として組織されています。中教研が略称です。

中教研には、市立中学校二十

四校に加えて、金大附属中学校および希望する私立中学校が加盟しています。会員数は約七百六十名。ひとり千円の会費と金沢市からの委託金で運営されています。部会は二十三あり、教科部会、教科外部部会、特別委員会があります。

○教科部会（十一） 国語・書写・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語

○教科外部部会（十） 総合的な学習・道徳・特別活動・教育相談・学校保健・学校図書館・情報教育・学校事務・特別支援教育・生徒指導

○特別委員会（二） 修学旅行・進路指導

中教研は市校長会を理事会とし、理事会からの中教研会長・副会長の二名と、委嘱された教頭若干名で総務会を構成しています。総務会は、各部会の企画運営にあたる幹事長を集めた幹事長研修会を年度初めと終わりに開き、年二回の会報と各部会の活動をまとめた冊子を発行しています。

各部会には部長として校長が充てられており、幹事長を指導して部会を運営しています。

部会開催は、教科部会が年四回、教科外部部会が教科部会とは別に年三回、年度当初に定め

られた日に開催しています。これに加えて、夏季休業期間に調整日を中心に、各部会ごとに日程を設定しています。

各部会の開始時刻は一五時三〇分を原則として、研究授業や外部講師を招いた講演会等ならば一五時開催も可としています。十月や十一月には各種研究大会が市内外で開催されていますが、教科部会では大会参加を部会に振り替えず、市独自の研究会を開催することになっています。ただし、教科外部部会では大会等に積極的に参加し学習を深めるよう促しています。



英語部会の様子

部会の内容は、授業研究や課題研究を主体としており、教科部会では年一回以上の研究授業が行われています。また、半数の教科部会では年二回の研究授業が実施されています。また、指導主事や大学の先生、専門家を講師として招いた講習会が行われています。夏季休業中には、ふるさと偉人館など校外の施設で学芸員より講話を聞いたり、専門家の下で大桑層で化石採集したりする部会もあります。

本年度は、研究主題「授業力向上を図り、活用力を育む教育活動の推進」、副題「金沢型学習スタイル」に基づく教育活動の推進の下で二年目の研究に入っています。

（文責 金沢市立清泉中学校 中 克之）

石川県算数教育研究会

今年度で、六十四回目の研究会を能美市立寺井小学校会場にて平成二十九年十月十三日に開催しました。

本会は、小松、金沢、中能登、奥能登の県内四地域での授業研究・研究実践交流を毎年秋に行っています。

ここ数年は、「数学的な思考力や表現力を育て、学ぶ意欲を高める算数教育」を主題に四領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の授業実践を重ねてまいりました。

本会は北陸四県数学教育研究会にも所属し、小学校・中学校・高等学校と系統的な学びを意識し研究の交流を組織的に行っています。

私達は先輩方が培った伝統を継承するとともに未来を創る子ども達には「考えることは楽しい。みんなと学ぶと楽しい。」と算数科の授業を通して意欲や思考力・表現力・判断力を育てるこ

とが大切であると考えています。
教員の意識や学びの深さは授
業に反映されます。石川県は全
国学力調査においても好成绩を
収め、子ども達の学力の定着を
図ることができています。

いつの時代であっても、教師
は目の前の子ども達が、「今日
の算数楽しかった。面白かった」
と思うことのできる授業づくり
に、何をどのように学ばせるか
何を考えさせるのか、そのため
にどんな素材や数値を使うのか、
単元のストーリーを教師自身が
わくわく感を持って授業設計す
ることが子どもの学ぶ意欲につ
ながると考えます。

今年算数科教育会を牽引さ
れてきた、明星大学客員教授の
細水保宏氏
に『主体的・
対話的で深
い学びを表
現する算数
授業』と題
して講演を
いただきました



した。

細水氏は聴衆である私達一〇
〇名あまりに、同じフロアで
授業のように講演していただき
ました。授業における教師の心
得を始め、言葉かけ、考えの根
拠となる板書の使い方、集団の
使い方等貴重な学びをさせてい

ただきました。

一本の授業を行うために様々
な視点から研究を重ね、本番の
授業に向かう。

毎年、様々な地域で開催され
る研究大会で新たな学びと新た
な出会いに刺激を受けながら伝
統の継承と新たな授業文化の創
造を生み出す石川県算数教育研
究会です。多くの会員とともに
算数教育の研鑽を積み重ねてま
いります。

石川県小中学校視聴覚
教育研究協議会

(文責 金沢市立小坂小学校
勝田 敬子)

本研究会は、日本学校視聴覚
教育連盟、全国放送教育研究会
連盟の下部組織団体であり、県
内各郡市の小中学校視聴覚教育
に関する研究団体を単位として
組織されている。

十一月の県研究大会 加賀大
会では、今年度も幼保・小・中・
高の四校種において「ICTを
活用した主体的・対話的で深い
学び」を目指した公開保育・授
業および分科会が行われた。

加賀市は全市挙げてプログラ
ミング教育にいち早く取り組ん
でおり、公開授業でその一端を
観ることができた。また、タブ
レット端末や電子黒板等を、教
師のみならず児童・生徒がツ

ルの一つとして効果的に活用し
教科のねらいに迫る姿は大いに
実践の参考となった。



加賀大会の様子



午後は共催のNHKよりNH
K放送文化研究所 主任研究員
の宇治橋祐之氏をお招きし、「デ
ジタル時代の学校教育とメデイ
アを考える」新しい可能性を子
どもの成長にどう生かすか」と
いう演題で記念講演をいただき
た。「NHK for School」があら
ゆる授業での使い勝手をよくし、
更なる進化を遂げていることを
知り、実践意欲が湧くのを感じ
た参加者が多かった。

本研究会は、もう一つの側面
がある。それは、中学校NHK
放送コンテストやICT活用の
研修会開催、さらにiPadの
レンタルを行ってきているとい
うことである。

特にiPadのレンタルは、
この四年間九月〜十二月を中心

に三十校を越える学校・学級で
授業や校内研究会で活用をして
もらった。現在はタブレット端
末の普及が各郡市で進められて
おり、本研究会の役目はひとま
ず終了と考えているが、今後各
学校のネット環境がより改善さ
れ、どの教室でもタブレットが
さくさくと動くようになること
を期待している。

次期学習指導要領では、各教
科の「情報化」が示され「言語
能力」と「情報活用能力」が「学
習の基盤となる資質・能力」と
位置づけられた。例えば、国語
で身につけるべき「知識・技能」
として、「比較や分類、引用の
仕方を理解する」「原因と結果
など情報と情報の関係を理解す
る」などと書かれている。

小学校算数では「データの活
用」という新領域が設けられた。
こうした学びを効率良く行う
ためにはICTの活用が不可欠
だと言えるだろう。「ICT」活
用という少々不安を感じる先
生方もおられると思うが、こ
れまで培ってきた指導技術を土
台にすれば、ICT環境を効果
的に活用し子供達の言語能力や
情報活用能力を育むことは十分
できると考える。まずは体験す
ることから始めていただきたい。

(文責 内灘町立向栗崎小学校
細川都司恵)

平成二十九年役員

- 会長 山田 裕司(金沢・米丸小)
副会長 中 克之(金沢・清泉中)
橋田 宏幸(輪島・河井小)
総務部長 山本 桂一(かほく・宇ノ気小)
研究部長 松田真由美(白山・石川小)
研究副部長 青山 智七尾(徳田小)
調整部長 外山ひとみ(能美・寺井小)
調整副部長 内波 景子(珠洲・正院小)
広報部長 平野 友昭(金沢・内川中)
広報副部長 谷口 典子(小松・東陵小)
会計部長 坂下 昭美(加賀・片山津中)
会計監査 出雲 香苗(羽咋・西北台小)
山形 正喜(金沢・城南中)

平成二十九年会務報告

- 四月一日(土) 三役会
四月十四日(金) 第一回理事研修会
五月十二日(金) 第二回幹事研修会
五月三十日(火) 第二回理事研修会
六月七日(水) 第二回幹事研修会
六月十六日(金) 第一回代議員研修会
七月二十一日(金) 第三回理事研修会
八月十日(水) 第三回幹事研修会
小中学校教育研究会第五回研究大会
九月二十一日(水) 第四回理事研修会
十月十日(火) 第二回代議員研修会
十二月十二日(火) 北陸三県中教研連絡協議会
十二月二十六日(火) 第五回理事研修会
二月八日(水) 第三回代議員研修会
二月十五日(水) 第六回理事研修会

平成三十年度県内開催予定の研究発表会

全国大会

◆全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会石川大会

- ・金沢市立泉小学校
・金沢市立兼六小学校
・県立音楽堂邦楽ホール
・十一月八日(木)・九日(金)

東海北陸地区大会

◆北陸四県数学教育研究大会

- ・小松市
・十月十九日(金)

◆公立中学校英語教育研究会石川大会

- ・県地場産業振興センター
・八月九日(木)・十日(金)

県大会

◆県国語教育研究会

- ・金沢市
・十一月(予定)

◆石川国語の会

- ・金沢市立小立野小学校
・十二月(予定)

◆県書写教育研究会

- ・金沢市内小学校
・十一月頃

◆県社会科教育研究会

- ・野々市市立館野小学校
・野々市市立布水中学校
・石川県立野々市明倫高等学校(予定)

◆開催日未定

◆県小学校社会科教育研究会

・金沢市

・十二月一日(土)

◆県理科教育研究協議会

- ・白山市立明光小学校
・白山市立北辰中学校
・石川県立鶴来高等学校
・十月十九日(金)

◆県音楽教育研究会

- ・能美市根上総合文化会館タクト
・十一月二十二日(木)

◆県図工・美術教育研究会

- ・小松市
・十一月二十二日(木)

◆県学校体育研究会

- ・小松市
・十一月

◆県小学校体育研究会

- ・金沢市
・十二月下旬

◆県小学校家庭科教育研究会

- ・開催予定なし

◆県中学校技術・家庭科研究会

- ・金沢市内中学校
・十月(予定)

◆県学校道徳教育研究会

- ・開催予定なし

◆県特別活動教育研究会

- ・加賀市
・十二月四日(火)(予定)

◆県小中学校視聴覚教育研究協議会

・認定こども園羽咋白百合幼稚園

・羽咋小学校
・羽咋中学校

・石川県立羽咋工業高等学校
・十一月十五日(木)

◆県学校図書協議会

- ・津幡町立津幡小学校
・津幡町文化会館シグナス
・十月二十三日(火)

◆特別支援教育研究大会

- ・羽咋市、羽咋郡
・十一月三十日(金)

◆県養護教育研究会

・文教会館
・地場産業振興センター

・七月三十一日(火)・八月一日(木)

◆県公立小中学校教育事務研究会

- ・文教会館
・八月二十三日(木)・二十四日(金)

※会場・期日は現時点の予定です。変更になることもありま

石川県小中学校教育研究大会 第6回研究大会

○期日 平成30年8月8日(水)

○会場 県地場産業振興センター

○日程と内容

午前(10時～)

・郡市町教育研究会協議会

各郡市町教育研究会代表による今年度の活動方針の協議、情報交換等

午後(13時～)

・開会式

・記念講演 講師 京都造形芸術大学副学長 本間 正人教授 演題 「未定」

・分科会

①石川県特別支援教育研究会 生活単元学習のあり方～新しい単元の展開～

②石川県養護教育研究会 養護教諭の資質向上をめざして～研究活動を充実させ、養護教諭全体のレベルアップをめざす～

③石川県公立小中学校教育事務研究会 石川県版 共同学校事務室についての考察

④石川県国語教育研究会 一人一人が伝え合う力を高める授業展開の工夫 ～言語活動の充実を通して～

⑤石川国語の会 子どもとつくる国語科の授業

⑥順教寺古代教諭(金沢市立戸板小学校) 子どもが創る生活科 ～かかわり合う中から気付く子をめざして～

⑦竹俣由美子養護教諭(金沢市立小坂小学校) 頻回に保健室を利用する子どもを援助する養護教諭の専門性とその力量形成

⑧荒木弥生子教諭(金沢市立中央小学校芳齋分校) 言語発達に遅れのある児童のための語彙の獲得に向けた学習プロセスの工夫

編集後記

本号では、各郡市町の教育研究会や各教科等研究会の活動状況や取組の様子を四つの団体から報告していただきました。どの研究団体も、本研究会のテーマである「石川の授業研究文化の継承と発展」に取り組んでいることがうかがえる内容です。今後本研究会が着実に成長していくことを期待したいと思います。

また、平成三十年度の研究発表会等の予定も掲載いたしましたので、各研究発表会が盛会になりますよう、ご協力いただければ幸いです。

最後に、第十二号発刊にあたり、たくさんの方のご協力やご支援をいただき、誠にありがとうございました。

広報部

部長 平野 友昭(金沢・内川中)

副部長 谷口 典子(小松・東陵小)

幹事 木戸 誠(金沢・厚川小)

森田 隆久(金沢・森本中)

井上 和久(河北・外日角小)

座主 雄一(金沢・新神田小)